

派遣者番号	R3K04	氏名	植木 みお
研究主題 —副主題—	教員が主体的に教科等横断的な取組を進めるために —探究学習と学校図書館活用の視点から—		
派遣先	東京学芸大学 教職大学院	担当教官	原口 るみ
所属	都立芦花高等学校	所属長	海發 真一

キーワード：カリキュラム・マネジメント 教科等横断的 探究学習 学校図書館

1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）（以下「新学習指導要領」）では、「カリキュラム・マネジメント」の視点が加わったことで、教科等横断的な学習を充実させることの必要性が更に強調されるようになった。しかし、梶（2018）が「管理職が学校経営（スクール・マネジメント）の一環として取り組むものであり、教員個々が取り組むものでないという意識がある」と指摘しているように、カリキュラム・マネジメントを自分ごととして捉えている教員は多くない。特に、中学校および高等学校は教科担任制により、それぞれの教科で指導体制がとられているため、他教科の教員が、いつ、どんな内容を扱い、どのような指導を行っているのかが見えにくくなっており、教科等横断的な取組が進みにくい現状がある。

新学習指導要領で新たに創設された「総合的な探究の時間」では、各教科の学びと総合的な学びが探究を通じて統合され、それが教育課程の改善につながっていくとされており、探究的な学びが教科等横断的な取組の推進につながると考えられる。また、文部科学省は、平成28年に「学校図書館ガイドライン」を定め、計画的に学校図書館の利活用を行っていくことを推奨している。その際に「各教科等を横断的に捉え、学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めることが望ましい」としている。学校図書館の有する豊かな教育資源を各教科の授業で活用することで、教科横断的な取組をしやすくなるのではないかと考える。

そこで本研究では、都立高等学校を対象に、教科等横断的な取組が進まない要因を明らかにするとともに、探究学習と学校図書館の活用という視点から教科等横断的な取組につながる糸口を探ることを目的とする。

2 研究の方法

(1) 事前アンケートによる調査

教員を対象にアンケートを実施し、探究学習への意識と学校図書館の活用状況、学校図書館活用に関する教員のニーズを確認した。

(2) インタビューによる調査

協力が得られた教員9名に対し、①教科を越えられそうな単元、扱う時期、②教科等横断的な取組をしたことがあるか、③教科等横断的な取組に至った経緯やきっかけ、④教科等横断的な取組を阻害する要因、⑤学校図書館と教科学習との関わり、という内容についてそれぞれ40分から50分程度、半構造化インタビューを行った。インタビューの内容は大谷（2008）が開発した質的データ分析手法であるSCAT(Steps for Coding and Theorization)を用いて分析した。

(3) 学習内容の整理と体系表作成

協力が得られた教員9名と筆者で、これまでの授業実践を整理し、学習内容を探究のプロセスに沿って体系表にまとめる作業を協働的に行い、相互に関連付けられそうな教科や、学校図書館を活用することで学習を深められそうな単元を探った。なお、体系表に用いた探究のプロセスは、「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」（平成30年7月）に示されている「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究過程を採用した。

3 研究の結果

(1) 事前アンケート結果

探究そのものは教員に認知されているようであり、学校全体で探究学習を推進していく素地はあると考えられる。学校図書館の一般的な機能についても概ね認知度が高いものの、学校図書館の機能を知らないという教員も少なからずおり、学校図書館活用に学校全体で取り組める状態ではないということがうかがえた。また、学校図書館の活用事例は情報収集がほとんどで、整理分析に至っては、活用例がないなど大きな偏りがあった。今後は学校図書館の持つ機能を最大限に生かすために、教員がどのように学校図書館を活用していくのかを考えていく必要がある。

(2) インタビュー分析結果

インタビューで得たテキストデータから、教科等横断的な取組及び学校図書館活用に関わるテキストを抽出・分析し、その結果を「カテゴリー」

「サブカテゴリー」「概念」の3つに分類することで、教科等横断的な取組と学校図書館活用に対する9名の教員の考えをまとめた(表1)。

インタビューからは、教員が概ね教科等横断的な取組に好印象を抱いていることが明らかになり、その取組によって教師としてのやりがいを感じたり、専門的な内容の解説を他教科の教員から任せられたりすることで負担感が減るといった声があった。また、教科等横断的な取組をすることで生徒の学びが深まると考える教員が多く、実際に生徒の変容を実感したという教員も見られた。

一方、その取組に消極的にならざるをえない実態も見えてきた。阻害要因として抽出された顕著なものには「時間的制約と教員の負担」であり、9名中6名が言及した。高校では未だに大学受験のための指導が中心になっており、そのためには限られた授業時間で膨大な内容を教えなければならない。その中で教科等横断的な取組を「追加で」行うことには、教員の消極性や負担感を強く感じることにつながると考えられる。その他、「教員同士の人間関係や意識」、「情報不足と他教科の学習内容の認識不足」、「学習時期と学習順序」等が教科等横断的な取組を阻害する主要要因として抽出された。

学校図書館活用については、情報収集における本の有用性に言及する教員がいる一方で、ICT環境が乏しく情報センターとして機能しているとは言い難い今の学校図書館では活用が難しいという声が多く聞かれた。

表1 カテゴリー、サブカテゴリー、概念

カテゴリー	サブカテゴリー	概念
教科等横断的な取組について	横断によってもたらされる効果と有用性	教員の指導観への影響と負担感／生徒に還元されるものや期待される変容
	横断につながる要素と考慮すべき事項	小規模な横断／大規模な横断／偶発的に起こる横断／教員の人間関係と対話の機会／教科特性／学習内容の把握／教員の意識と主体性／教員の専門性と背景知識の有無
	横断の阻害要因と懸念事項	時間的制約と教員の負担／教員同士の人間関係や意識／学習時期と学習順序／教科特性／情報不足と他教科の学習内容の認識不足／評価及びカリキュラム
	横断の組織的取組の必要性	目指す資質能力の明確化と共有／カリキュラムの見直し
学校図書館活用について	活用の有用性と可能性	本の持つ有用性／本を読ませることによる副次的効果／学校図書館の機能見直しと活用／施設・設備の問題／正しい選書の必要性
	活用を阻害する要因	蔵書の古さ及び数の少なさ／予算／外部委託／司書／教員の意識／一人一台端末の有用性

4 研究の考察

(1) 教科等横断的な取組について

教員が捉える教科等横断的な学習には差があり、インタビューでは、授業の中で他教科の内容に触れたり教員の個人的な努力で学習をつないだりしている「小規模な横断」と、総合的な探究

の時間で行うような学校全体の取組である「大規模な横断」の両方が示唆された。学校としては大規模な教科横断を目指していくべきであり、そのためにはインタビューの中で複数教員から提案があったようなテーマ学習の導入が効果的だと思われる。テーマ学習では教科の枠にとらわれることなく学習を進めることが可能になるため、インタビューから抽出されたような教科横断の阻害要因を考慮する必要がなくなり、教員の負担感の軽減も期待できる。また、テーマ学習は学校教育目標と連動する必要があるため、生徒に学ばせたいテーマを選択する過程が、実用的で現実的な学校教育目標の策定につながると考えられる。その過程に教員が主体的に関わっていくことこそが、カリキュラム・マネジメントにつながっていくのではないだろうか。

(2) 学校図書館活用について

学校図書館については、活用が進んでいるとは言いがたい実態が明らかになったが、適切に活用すれば高い教育効果を発揮する施設である。「今ある教育資材を活用する」ということが、教科等横断的な取組に対する教員の心理的な負担の軽減にもつながると期待される。教員自身が学校図書館をもっと身近な存在として認識し、学校図書館を「育てる」意識をもって、組織的な図書館の機能改善に努めることが必要である。

探究学習体系表の作成については、一部の教科の教員としか行うことができなかつたため、学校全体で共有するものとしては内容の充実度が乏しいものになってしまった。しかし、作成過程において、体系表は教員同士の会話を促す一助となり、各教科の実践を知ることができたことは大きな収穫であった。

5 今後の展望

教科等横断的な取組が進まない様々な要因や、教科等横断的な学習に対する教員の解釈が十分でないことを踏まえ、今後は教員間で共通理解を図りながら取組を進めていく必要がある。テーマ学習などの「大規模な横断」に取り組むことを目指し、その際、学校教育目標やテーマの設定をする過程に教員を関与させ、教員の主体性を大切にしながら組織的に進めることが理想的である。

また、各教科の年間授業計画及び単元指導計画や、本研究で作成した体系表等により、教員同士の対話が活性化され、授業改善につながる一助となることを期待し、継続して体系表作成とその活用方法を検討していきたい。加えて、学校図書館の効果的な活用が教科等横断的な取組につながると考え、学校図書館の機能の見直しと活用方法を模索していきたい。